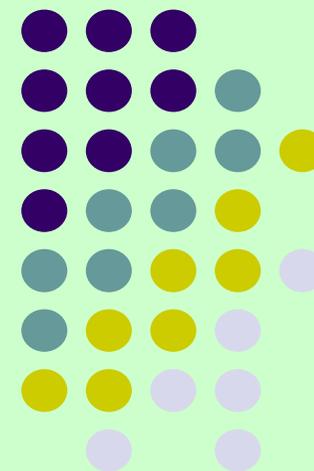


第42回愛知学院大学モーニング・セミナー

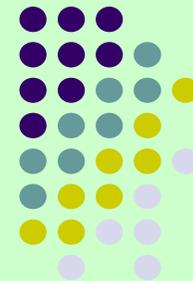
# 日本の食糧自給率 39%を考える

—世界の食料需要トレンドから見えるもの—

名古屋市立大学大学院  
経済学研究科  
教授 向井 清史



2009年9月8日



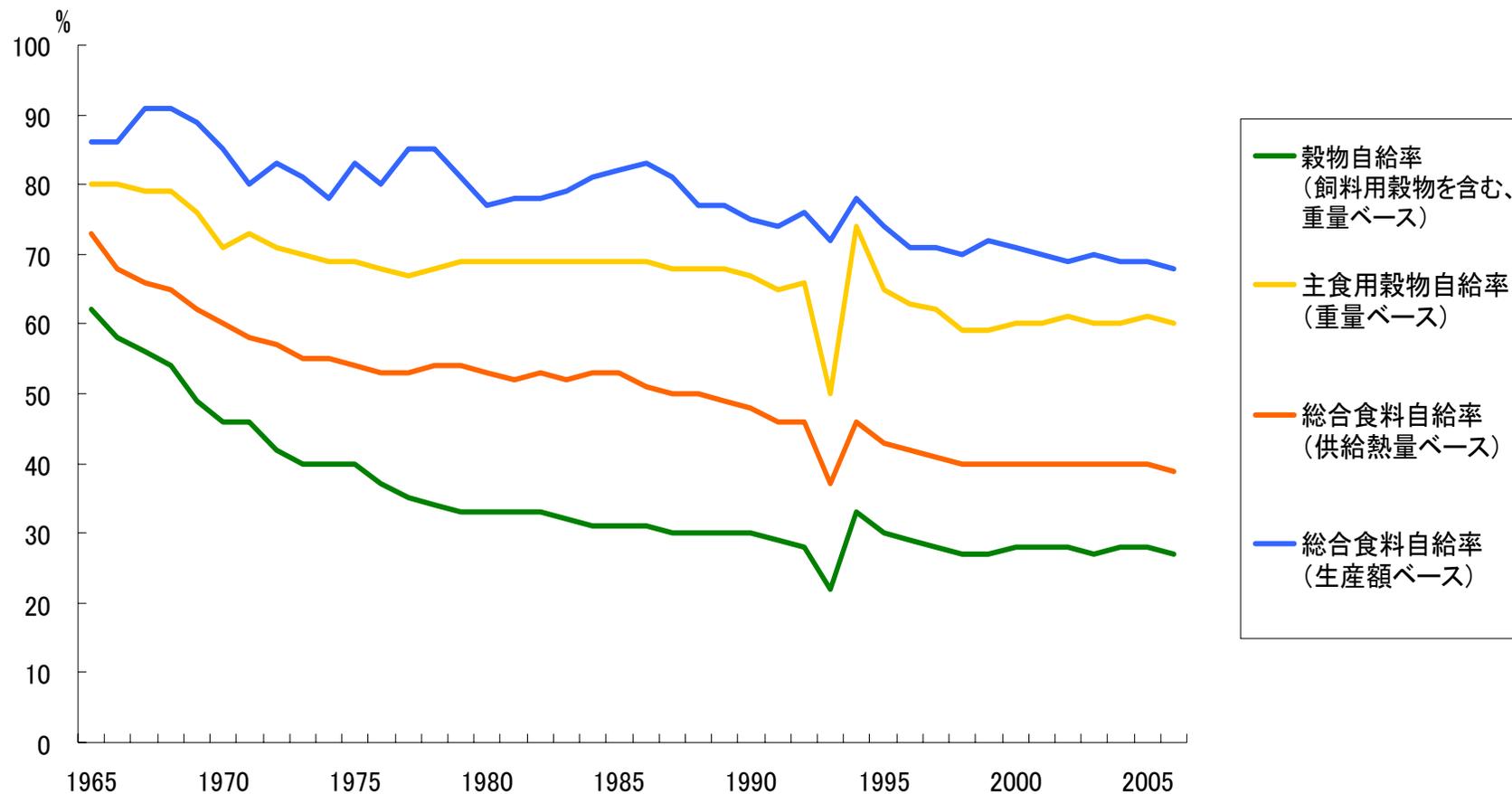
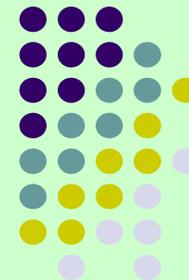
# 1. 我が国食料自給率の現状と他の先進国との比較

自給率には多様な指標がある

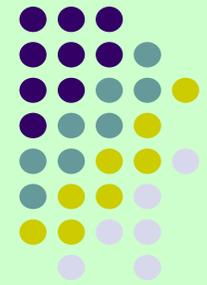
全体的には傾向的に低下しているが、品目別では多様

他国に比べて低い上に、唯一傾向的に低下させている

# 我が国の食料自給率の推移



資料：農林水産省「食料需給表」



## 主な食料の品目別輸入率の推移

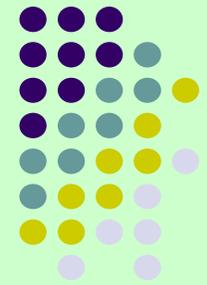
(単位：%)

	果実	肉類	牛乳及び 乳製品	野菜	米	(参考) 小麦	(参考) 大豆
1965年	12.4	9.9	13.4	0.3	0.7	73.3	88.9
1975年	17.2	24.9	16.9	1.4	0.2	96.0	96.4
1985年	24.9	19.6	17.5	5.0	0.3	85.6	95.6
1995年	51.7	43.4	28.0	15.2	4.4	92.8	97.6
2005年	59.5	47.0	31.6	21.2	9.8	85.8	94.9

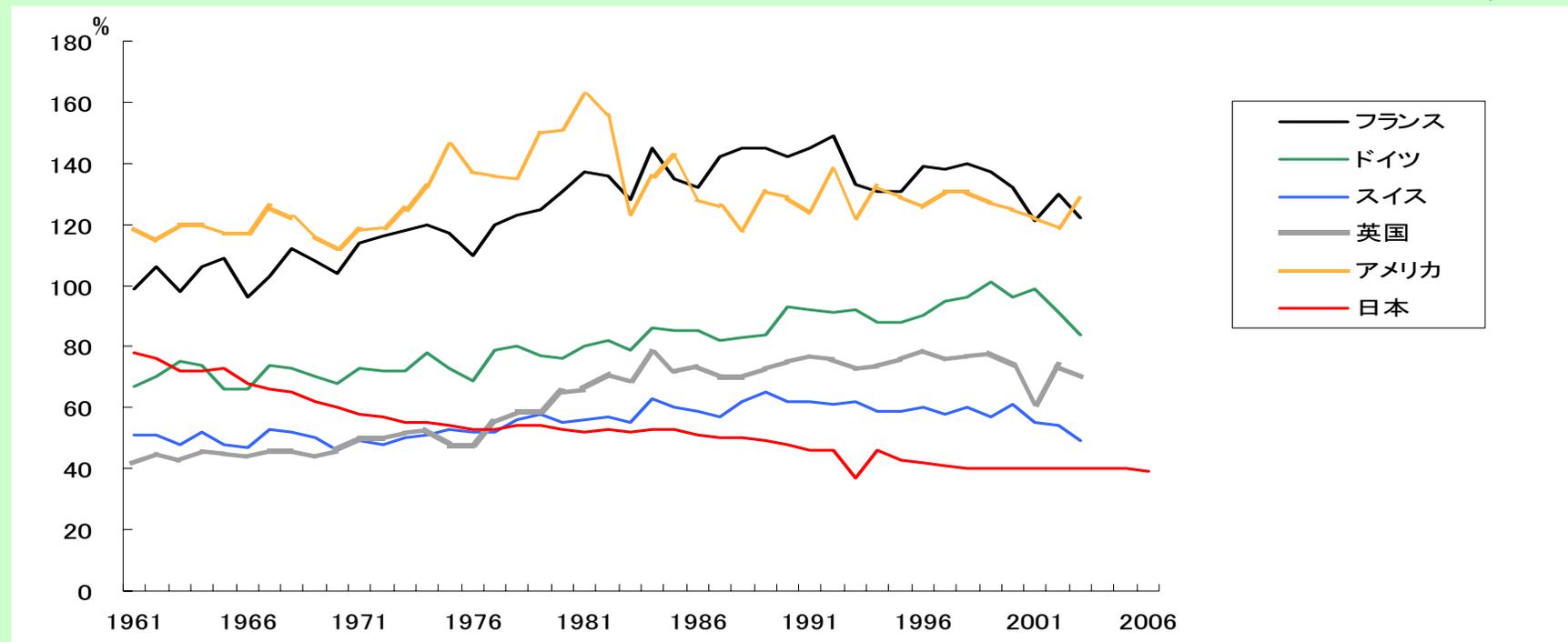
資料：農林水産省「食料需給表」を基に農林水産省で作成

注：1) 輸入率 = 輸入量 / (国内生産量 + 輸入量) × 100

2) 輸入量は、生鮮換算等された数値

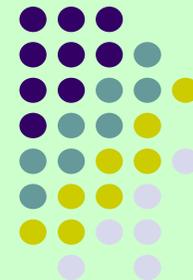


## 我が国及び諸外国の食料自給率 (供給熱量ベース)の推移



資料:農林水産省「食料需給表」、FAQ「Food Balance Sheets」を基に農林水産省で試算した。

- 1) 供給熱量総合食料自給率は、総供給熱量に占める国産供給熱量の割合である。なお、畜産物については、飼料自給率を考慮している。また、アルコール類は含まない。
- 2) ドイツについては、統合前の東西ドイツを合わせた形で遡及している。
- 3) 日本及び上記諸外国以外は、データが不足しているため試算していない。
- 4) FAQ「Food Balance Sheets」のデータは、過去に遡って修正されることがある。

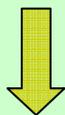


## 2. 何故、自給率が低いと問題なのか (財としての食料品の特質)?

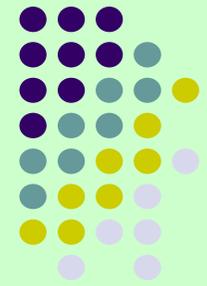
必需品であり、毎日必要 → 一時の不足も許されない  
→ 08年にバングラ、フィリピン、エジプト他20カ国で暴動

しかも満たすべき最低水準がある:

$$\text{FAO基準} = \text{基礎代謝量} \times 1.54$$

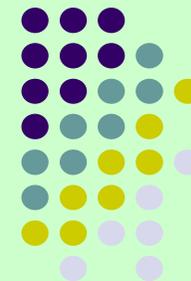


食料、農業、農村基本計画 → 2015年に自給率46%



### 3. 何故、日本の食料自給率は低下したのか？

- A 食生活の欧風化(この様な国は珍しい)
- B 生産基盤の脆弱化(長期トレンドから見た問題)
  - \* 農業従事者の減少と高齢化
  - \* 耕地面積の縮小と空洞化
  - \* 総産出額の減少:生産の絶対的縮小と農産物  
価格低下
- C リスクに弱い農業構造(短期的問題)
  - 世界市場の不安定化が一層農家を減少させる

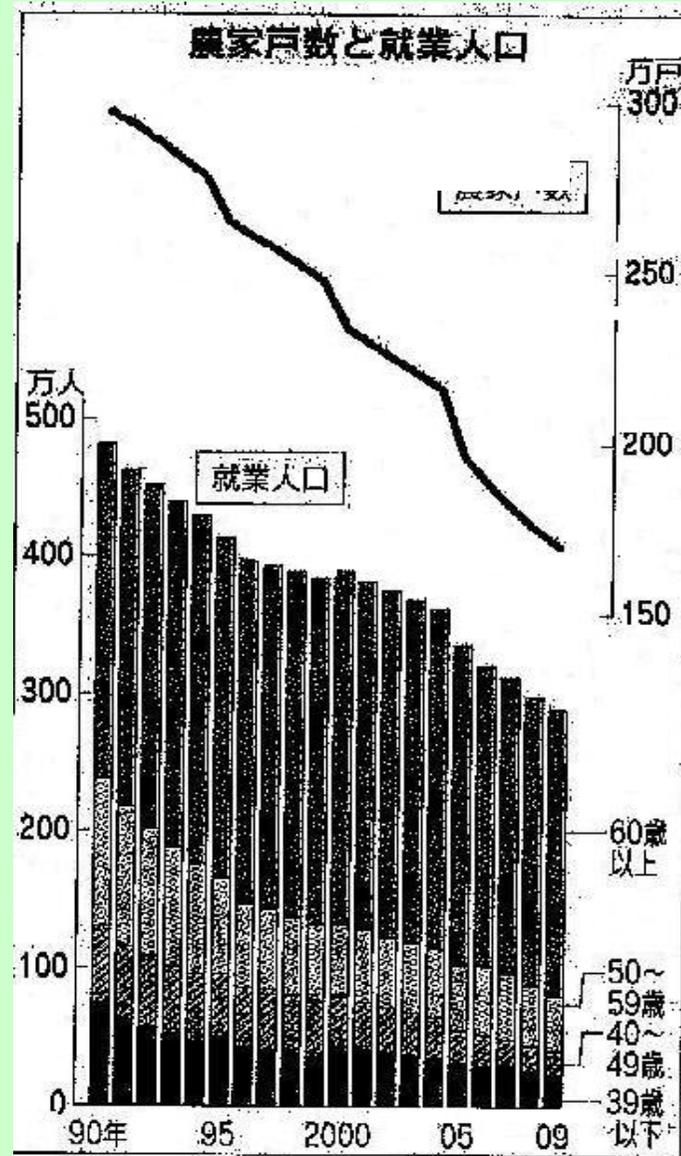
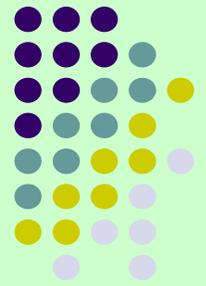


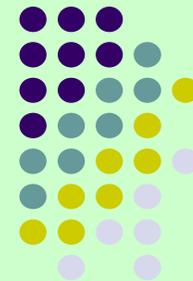
## 供給熱量の構成の変化と品目別の食料自給率 (供給熱量ベース)

	1965(昭和40)年度			2006(平成18)年度		
	供給熱量 (kcal)	国産熱量 (kcal)	自給率 (%)	供給熱量 (kcal)	国産熱量 (kcal)	自給率 (%)
米	1,090	1,090	100	595	561	94
畜産物	157	74	47	394	63	16
油脂類	159	52	33	368	13	4
小麦	292	81	28	320	42	13
砂糖類	196	60	31	205	66	32
魚介類	99	108	110	130	77	59
野菜	74	74	100	76	58	76
大豆	55	23	41	79	20	25
果実	39	34	86	65	23	33
その他	298	204	68	315	74	23
合計	2,459	1,799	73	2,548	996	39

資料:農林水産省「食料需給表」

# 農家戸数と就業人口





# 農地面積と耕作放棄地面積

(農林水産省「耕地及び作付面積統計」、「農林業センサス」)

